



【人間の孤独の問題と神の解決策】

聖書本文:創世記3章1-24節/暗唱聖句:ヨハネの福音書17章21節

説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん！一週間も心も、体もお元気でしたか。今週中台風が上陸するようです。また一週間も救い主キリストイエスにあって守られ、主の平安で過ごせられるようにお祈り申し上げます。

先週一週間、岩手県で中学2年の男子生徒が列車にはねられ死亡した事故がありました。調べた結果、2年間耐えられなかったいじめのせいであったことでさらに波紋が広がりました。私もこのニュースを見ながら、その学生がどれほど辛い思いの中で寂しく孤独で必死に生きようとしたのか考えてみると胸が痛くなりました。

今日忙しいの現代人たちはよく孤独だと、寂しいと訴えています。夫婦の間にも、親と子どもたちの間にも、仲間たちの間にも、会話と相通の不足や欠如でさらに孤独を感じているのではないのでしょうか。まだ全然若いのに先週岩手県で電車に自分の身を投げてしまった中2の学生も苦しいいじめの2年間の間、だれも自分の悩みを聞いてくれる人も、正直に話せる人もいなかった事を考えて見ると、どれほどその学生が一人ぼっちで辛い孤独を感じていたかさらにその痛みが伝わって来ます。実は人間の孤独な問題は昔も、今日もとても切実な問題であります。そして、実際孤独の問題は人間ならみんな関わっている問題でもあります。その問題を解決しようと、ある人は仕事や事業に没頭(ぼっとう)したり、ある人はずっとお酒に依存したり、とばくとか体の快樂にはまったりして見ますが、人の孤独は容易く去りません。人が孤独になるようになったその理由と人間の孤独の問題を根本的に解決するための神様からの解決方法は何であるかを共に捜さなければなりません。

今日の創世記の本文、エデンの園で初めの人間だったアダムとエバについての内容はとても有名でよく知られています。神が天地万物を美しく創造されてから良かったとおっしゃいました。その後、神は人を造りになり、男アダムを、そしてアダムから女のエバをお造りになってから非常に良かったとおっしゃいます(創世記1:31)。

この美しいところで一つの出来事が発生しました。一番狡猾(こうかつ)だった蛇に仮装(かそう)したサタンはまずエバを誘惑します(3:1)。神は**“エデンの園のどの木からでも思いのまま食べて良い”**と仰せられました。しかし、善悪の知識の木からはとって食べてはならない(2:16-17)と命じられます。サタンはこの食べてはならないという神の命令をえさにしてエバを誘惑しました。ここでサタンはまず、人にまるで**“園のどんな木からも食べてはならない”**かのように神は人の自由をすべてを奪い、コントロールしようとする独裁者のように巧妙(こうみょう)に歪曲させながら、神の愛について疑いと懐疑(かいぎ)を抱かせます。神はただ善悪の知識の木の実を食べてはならないことに理由をもっともらしく歪曲させます。

“あなたがたがそれを食べると、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っていたから食べてはならない。(3:5)”と嘘をつきながら、神様が食べても良いと言われた全ての木よりも、食べてはならないこの一本の木の実に人の視線を固定させました。

それで女エバが善悪の木を見たら、まことに食べるのに良く、目に慕わしく見えました。まさに蛇が言われた通り人を賢くするような実のように見えました。そしてその善悪の実を食べると、サタンの話のように神のようになれそうな考えがします。それで女はその身を取って食べ、いっしょにいた夫アダムにも与え、共に食べてしまいました。

これがまさに我らの人類の先祖始めの人が犯した罪でした。多く人は罪だと言えば詐欺(さぎ)をしたり、盗んだりすることだと考えます。もちろん、それらも罪ですが、それらは自分が罪人だから現われる症状(しょうじょう)にすぎません。根本的な罪は人が神になろうとする意志であります。つまり、神のように自分がすべてを選択し、判断し、評価しながら全部自分の思う通り決めて行きたいと願います。神の御言葉に沿って従うより自分勝手に歩もうとしながらいつも自分が正しいと思い込んでます。

ヘブル人たちは善と悪というものは抽象的なものではなく、非常に現実的で、具体的なものとして扱っています。それでヘブル語のすべての単語は動く動詞から出たのです。なので、善というものは実生活に有益なもので、悪は実生活に害になることを意味していました。ですから、今日の本文でアダムとエバが善悪の木の実を食べたという意味はこれから何が自分に有益で、何が自分に害になるのかを自分で決める意志を表した事を意味します。

罪を犯す前の神と人の関係は愛、信頼、信仰の関係でした。サタンはこの信頼関係に疑いを吹き入れたのです。それでアダムとエバは神のみを信じ従う事がなぜか損になりそうだったので、これからは何が自分たちに利益になるかは神ではなく、自分たちで決めていこうとする気持ちをサタンは与えたのです。その結果、人間が神様から背いて離れた時から人間社会には孤独が始まりました。

罪の結果は3つで現われました。初めては辱めです。二人の目が開かれ自分たちが裸である事を知るようになり、いちじくの葉をつづり合わせて自分たちの腰のおおいを作りました。このように神の命令と御心に従わず、その約束を破った時、辱めが生じたのです。ここで一つ気になる点は善悪の木の実を食べてしまったことで罪を犯したならば、人の口を覆わせるべきなのに、生殖器(せいしょくき)のあるところを覆わせたことです。それはいったい何を意味していますか。彼らの辱めは自分の存在、自分の人生の核心を触ってしまう辱め(羞恥:しゅうち)であったという意味です。罪のため人に辱めが入って来たので

す。

二つ目は恐れです。8節を見ると、そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いたと書かれています。罪を犯す前は神様に会う事が楽しみであり、喜びでしたが、罪の結果、男とその妻は神様を恐れ始めました。それで彼らは神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠したと聖書は教えています。

三つ目は愛の関係が崩れました。9-10節で“神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」と問います。するとアダムは“私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。”と答えました。厳格に言うとアダムのこの答えは間違っています。隠れた理由は裸になっているのに恐れたのではなく、神様が食べてはいけないと言われた神様との約束を破ったからです。

愛するみなさん！嘘をつき始めることは愛の関係が崩れ始めた印(しるし)でもありません。

それで神様はその点を11節で指摘しています。11節で“あなたが裸である事をだれが教えたのか？あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか？”すると12節でアダムは“あなたが私のそばに置かれたこの女があの木の実をくれたので食べました”と責任を転嫁しています。神様が始めの女であるエバをアダムに連れてくださった時、‘私の骨からの骨、私の肉からの肉’だと喜んでいた人がもはや妻に指差す者になってしまいました。あなたが造ってくれたこの女のせいです。！そしてそれだけではなく、この意味の中には究極的に神様あなたの責任ではないでしょうか！という意味も含まれています。まさしく、人間はここで神様との愛の関係が崩れ、夫婦のアイの関係が崩れました。

人類の始めの先祖の罪によって私たちは恥ずかしさを知り、恐れを知り、それによって愛の関係が崩れました。我々は彼らの子孫ですので、心に恥ずかしさをもって生きています。私自身もこのような恥ずかしさを感じながら育った人の一人です。劣等感による恥ずかしさ、自分の外見による恥ずかしさ、人間関係の失敗による恥ずかしさをたくさん感じました。しかし、この恥ずかしさを隠すためにわざと明るいふりをしたり、運動もして積極的なふりをしたり、自分の弱さを隠すために強いふりをしただけでした。

人の恥ずかしさはいつも恐れに繋がります。自分の素の姿がばれたらどうしようという恐れです。人間関係が切られるのではない、愛する人々から裏切られるのではない、捨てられるのではない、恐れと不安を抱えています。ですから我々は回りに城を積みます。そして心の扉を閉めます。その結果が寂しさであり孤独です。

愛する信仰の家族のみなさん！ イエスキリストは人間のこの孤独と恐れの問題を解決して下さるためにこの世に来られました。神様は人間の孤独が恥ずかしさと恐れの結果である事を存じてイエス様をそんなわれらを救うためにこの世に送って下さいました。神様であるイエス様はこの世に来られ生きながら一度も恥を感じる必要がない完全な生き方をされました。しかし、このように完全な生き方をした唯一な方、イエスキリストの死は恥ずかしさそのものでした。十字架の死は単純な死刑の方法ではありません。奴隷たちが、一番悪い罪を犯した罪人たちに下る一番恥ずかしい死刑法でした。

辱められる何の必要もなかった方がなぜ一番はずかしい死を迎えるべきだったのでしょうか？だった一つ！我々の辱めを取り除くためでした。完全な生き方をした方がなぜ罪人の処刑を受けましたか？我々が受けるべき罪の罰を我々の代わりに受けるためではないでしょうか？

しかし、イエスキリストは十字架にかかって死んで終わったのではなく、預言の通りに三日目によみがえられました。それによってだれでもイエスキリストを信じる者は罪による永遠の死から赦され、開放され、救われる道を与えて下さいました。それだけではなく、罪人である私たちですが、イエスキリストにより神様の子としてきよくなる道をも与えて下さいました。以前は辱めのため、恐れのため神様に恐れ多く立つこともできなかった人もはや大胆に出られる資格が与えられました。

辱めと恐れが取り除かれたということは我々と神様との関係が回復されたことを意味します。神様は遠くおられる方ではありません。私とともにおられる方です。神様は裁き主として恐れるべき方ではなく、私を愛し赦して下さる父となって下さいました。イエスキリストによりこのような関係が回復されたのです。

最後に覚える事があります。キリストが成し遂げた関係の回復は神様と我々の間だけではなく、我々と隣人との関係においても拡大されました。隣人との関係回復は愛と仕えの共同体として表されます。父、御子、御霊の三位一体の神様のような共同体です。三位一体の神様の概念自体はそんなに難しくありません。正確な比喻ではありませんが、分かりやすく例えますと、わたくしが‘チョンナムチョル’になるためには肉体があって、精神と魂がなければなりません。肉体と精神、たましいはみな別々ですが、しかし、これらを分離しては一人の人間として存在することはできないことでしょう。肉体と精神、魂が合わせられたときようやく‘チョンナムチョル’になるのです。神様も父なる神様、御子イエスキリスト、御霊なる聖霊様が各自おられますが、この三つが合わせられてひとりの神様にもなられます。つまり、神様は一人将軍ではなく、一つの共同体である事を表します。

ヨハネの福音書17章はイエス様が最後の晩餐を終えた後、十字架につけられる前にゲッセマネの園で最後に弟子たちをために祈られた場面です。イエス様の十字架の死の前の最後の祈りですので、とつても大切な祈りに違いありません。

11節で“あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らも一つとなるためです。”三位一体の神様が一つであるように弟子たちも一つとなるように祈られました。21節は“父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。”と祈られました。

愛する信仰の家族のみなさん!イエス様は神様から遣わされた方である'ことをこの世に知らせる方法は簡単です。それは我々が一つとなることです。一つの愛の共同体となって仕える事です。三位一体の神様が一つであるように信じている人々が一つとなる事を見る時ようやくイエス様が神様の御子であることを知る事ができます。

22節に、“わたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。”イエス様が死なれる直前ささげた祈りの目的は弟子たちが一つの共同体となるためでした。主の教会はキリストの愛を表すために仕える共同体ですので、もはや寂しがる必要なありません。このような信仰と愛の共同体である教会のためにイエス様はこの世に来られ、死なれ、復活されました。

しかし、我々が注意すべきことは、思いつき笑って楽しく交わることに終わってしまうなら、この世の倶楽部の程度に過ぎません。続けて、我々の中にある愛が流されるようにしないと腐ってしまいます。キリストの愛と信仰によって一つとなる、私たちの間だけではなく、ほかの方々もこのキリストの愛の共同体に入るように愛をもって仕える共同体とならなければなりません。このことのために我々は今日も続けて自分にある壁を打ち壊さなければなりません。まず自分からです。そうする時我々は孤独になるず、自分にあるぶあつい壁を壊していく時自分のある恐れ、辱めがなくなると信じます。そしてようやく心から愛し、仕える共同体となっていくと信じます。

メッセージをまとめます。我々は寂しく生きる事がないように造られました。我々の寂しさは辱めと恐れのはせいです。寂しさから開放され、神様に喜ばされる共同体となるためには自分の壁を壊して他人を受け入れなければなりません。単純にイエスを信じなさい!イエスを信じなさい! という伝道のやり方が通じない時代となりました。イエス様はまずあなたがたがキリストの愛で仕え、一つとなることによってわたしの弟子である事が知らされると言われました。なので伝道のためにでも我々は愛をもって仕える共同体を作らなければなりません。

みなさん。主が望んでおられる共同体を作っていきましょう。神様を知らない人々は寂しいです。さびしい事を認めようともせず、その寂しさを解決する道すらないと思うのでさらに寂しいです。このように方々は心と心の通じ合う共同体と愛をもって惜しみなく仕える経験をされると感動して、自分の寂しさを意識し始めます。この寂しさが解決される時、彼らはイエス様が神様の御子である事を告白するようになると思えます。クリスチャンプレイズチャーチも主が望んでおられる一つの愛の満ち満ちた共同体となって寂しがっているたくさんの方々のたましいがわれらを通してイエス様を信じ、救われる御業がますます起こされますようにイエスキリストの御名によって祝福し、心からお祈り申し上げます。アーメン!